

● Arthur Hassall, *European History, chronologically arranged*, 476-1920, New Edition (London, 1920)

Hassall 氏の歐洲史年表の初版は一八九七年に出で爾來屢々改訂増補を觀たるが最近の新版は更に世界大戰終了後の一九一九年六月迄を追加して公刊せらるゝに至れり大戰期の紛糾を極め居れる歐洲政界の事件顛末を矢張本書從來の様式を追ひ獨逸東南北歐洲諸國英吉利佛蘭西の四方面に適宜分屬せしめ簡明なる記事を年次順に掲けしは一般學者を益すること多大なるべしと思はるゝなり本來この年表は中世以降の歐洲史を國別又は地方別の四區劃に分ち記事比較的詳密なる上巻尾に諸戰役摘要王室系圖帝王表を附したるものなれば讀書子に絶えず利便を供する點に於いて其編纂法は類書中優秀なるものに屬すべし然しながら近世期の部に入りて獨英佛の三區劃に對し爾餘の東、南、北歐洲諸地方の事件を一區劃の下に併記せるは極端なる便宜主義に流れしものといふべく聊か亂雜の嫌ひなきにあらざるなり〔以上植村〕

● 熊野手 篋と 櫛 扇
新宮

東京美術學校工藝史研究室の研究報告第一輯にして體裁は菊版和裝横綴、玻璃版六十五枚、本文五十五頁より成る同學講師香取秀真氏の實地に就いて撮影せる兩遺品の寫眞を主とし五六の他の寶物を加へこれに對する岡氏の解説も云ふべき「熊野まゐり」に六角紫水氏の「手篋の蒔繪に就いて」なる一文を載せ別に櫛篋一覽表を前年發見せる明德元年の熊野新宮神寶目錄を以てせり香取氏の文は紀行文體なるを以て寶物類の精彩なる研究を是れに求むること難きも平易なる間に興味ある見解を示す處少なからず高尙なる案内記を見るべしまた六角氏の文は蒔繪手法の沿革を概説して本新宮の手篋の占むる位置を説ける小文なり南北朝より足利初期の遺品にして蒔繪の系統上重要な此等の遺品も土地の遠隔の爲從來調査未だ全からざりしが今本冊所收の寫眞に依つて其の性質を窺ひ得べく工藝家の好參考たらむ其の神寶目錄は同社の寶物研究上重要な資料にして此の方面の研究者の注意を惹くものなり(巧藝社發賣、六、五〇)

● 正倉院樂器の調査報告

帝室博物館學報の第二冊にして四六倍版、本文四十六頁の冊子なり著者上眞行、多忠基、田邊尙雄三氏が昨年十一月の曝涼期に際し同院收藏の多數の樂器に就いて試みたる詳密なる調査を記述し其の結果究明し得たる音樂史上に於ける重要な事項を録せるものなり此の調査報告は専門の見地より種々の重要視すべき事實を示せるが其の從來律管なりとせる二個の樂器を肅なりと斷ぜしが如き又新たに北倉階下及び假倉庫中より和琴及び箏桐琵琶面發見の記事の如き而して此の發見の結果和琴の寺院樂として早く用ひられたるを明瞭にせられし等も注目を惹く事實なりとす正倉院の樂器はこの調査に依りてはじめて其の構造の明にせられたるを喜ぶたゞ望蜀の感を述べれば詳細なる數字の記載の外その一々の正確なる實測圖の錄さるべかりしことなりされどこれは調査の日程上不可能なりしやも知るべからず附録として田邊尙雄氏の「南倉階上にある箏篋に就て」なる一文あり附圖八枚を添へ比較研究上より同院の箏篋を以てアツシリア系のバープなりとせりたま興味ある見解なり(帝室博物館發行、〇、五五)

●古 瓦 集

三 K 會 編

京都高等工藝學校出身の有志者の組織せる三 K 會の圖集第一として嚮に天沼工學博士の百部を限り印刷して知友に頒布せる「家藏古瓦譜」を更に廣く一般の需要に應ずべく刊行せるものなり四六倍版のコロタイプ十枚を以て一集とし各葉同博士の手に成る解説を附しあり六集を以て完了の豫定なり今ま既刊の三集に就いて見るに玻璃版の印刷鮮明、紙質また良く懇切なる解説と相待つて愛瓦家の好參考たらむ定價また廉と云ふべし(山本文華堂發賣、二集〇、八五)

●續和鏡聚英

瀨廣治兵衛編

同氏が嚮に印行したり和鏡聚英につき其の後編者の獲たる全国各地の和鏡の拓本寫眞の類より優秀品三百面を撰擇して玻璃版に附し一百部を限りて頒布せるものなり三冊本にして體裁はすべて前者と等しく和紙刷りなるも今次のものはその三百面の半ばを寫眞を以て表はしまた正編にては一々の頁に記入せし解説を、これは一括して卷首に收めたるなを異なりとす正編と併せ見るに於い

て略我が國現存和鏡の優秀品を網羅せるに近く編者の勞を多しせざるべからずたゞ此の續編も價不廉にして研究者の購求に便ならざるものあるを憾みす（同所發賣特價五五、〇〇）〔以上梅原〕

雜誌

●Die Verteilung des Landbesizes in Sibirien. A. Schultz. (Petersmanns geogr. Mitteilungen Dec. 1939)

西比利亞の自然地理的區劃ミ土地所有者との關係を記述したるものにて從來此の種の研究極めて乏しく殊に最近人口過剩に苦しめる本邦に於て西比利亞開發の急務の喧傳せらるゝ折柄頗る興味ある研究ミ云ふべし加ふるに鮮明なる地圖二葉を添へて土地所有別の分布を明にせり但惜むらくは今一息ミ云ふ所にて研究のや、皮相的なる嫌あり今其の要點を紹介せんに西比利亞は北緯六十四度以北は全然農耕に適せず西部西比利亞の廣大なる低地は北部南部に分る北部は軟き鉛砂より成る沼澤性森林にて南部は黒土より成る森林性ステップなり此の黒土地は耕地頗る廣く露西亞新舊移民の最も纏りて在住する地方な

り其の南は阿爾泰薩楊兩山地にて僅に露人韃靼人の農牧を營むを見る蓋し黒土地方を占むるトムスク、トボルスク兩省は其の地形頗る露人の郷國に類するを以て露人爭ひて移住し既墾地已に少からず黒土地の北は森林沼澤にして移住地は僅に河畔に存す南は荒涼たるキルギスステップにて僅に所々水畔に移住地の點在するを見るキルギスステップミ黒土地との間に哥薩克所有地ありオレンブルグ省より帶狀をなしてイルチツシユ河畔に至り更に此の河に沿ひて中央亞細亞の山麓に至る是れ西比利亞農民をキルギス遊牧人の侵入に對して保護せんが爲なりキルギスステップは褐色土より成る草原にして其の北部は氣候稍良好農牧行はれ特に丁抹流のバター製造の盛なる所として知られ南部は漸く赤土の荒野となり只キルギス人の遊牧するを見る黒土地の北界には農業に適する國有地ありオスチャク、サモエード兩族獵漁區域の北方も北緯六十一度までは農業に適するも林空排水至難なり中部西比利亞即ちエニセイ、バイカル、レナの間は高原山地にして氣候不良、鉛砂地多く農耕適地乏しく移住地は西比利亞鐵道に沿へる黒土地を占む東部西比利亞即ちトランス